

2022年8月31日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社浜屋に「SDGs推進融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、株式会社浜屋（代表取締役：小林 茂）に「SDGs推進融資」を実施いたしました。

「SDGs推進融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDGs（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等をご提供する融資商品です。

今回対象となりました、株式会社浜屋については、以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

- ① 廃棄物を再商品化するリユース事業拡大を通じた、資源循環型社会形成や、途上国の人々の賃金収入向上への貢献

| | |
|---------------------------------|---|
| 目標 12 つくる責任 つかう責任 | 12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 |
| 目標 8 働きがいも 経済成長も | 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。 |
| 目標 17 パートナリーシップで 目標を達成しよう | 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。 |

- ② 使用済み電子基盤・産業機器からのマテリアルリサイクル事業を通じた環境への悪影響の低減

| | |
|-------------------------|---|
| 目標 12 つくる責任 つかう責任 | 12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。 |
| | 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。 |

③ 社会的課題に関する情報を発信する Web メディアの運営を通じた、サステナビリティへの意識啓発

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>目標 12 つくる責任 つかう責任</p> | <p>12.8 2030 年までに人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p> |
|----------------------------------|--|



①キフコレの紹介：不要なモノを送るだけで、約 100ℓ の水をキレイにする浄化剤が途上国に寄付されるサービス「キフコレ」。さらに環境保護（不要なモノを再利用・再資源化するため廃棄物の発生を削減）、障がい者の雇用創出、途上国の自立支援といった社会貢献に取り組んでいます。



②海外で修理・再利用の紹介：株式会社浜屋は、まだ使える不用品を海外に販売しています。現地でメンテナンスや修理をして再利用されることにより、廃棄物の発生を大幅に削減しています。

三井住友銀行では、「SDG s 推進融資」により、本業を通じ、SDG s が達成される社会の実現に貢献をしております。

<ご参考>

※ SDG s とは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を 2030 年までに目指す 17 の目標と 169 のターゲットのことです。

以上